

フィッツジェラルド研究

—ジャズ・エイジと彼の文学—

兼 定 和 憲

私達は、しばしば「ジャズ時代の桂冠詩人」とか、「失われた世代の旗手」という言葉を耳にするし、それらの言葉は、私達にF・スコット・フィッツジェラルドのことを思い出させてくれるのである。彼は、新しい価値観が未だ固まっていない第1次世界大戦後のアメリカで新しい世代の1920年代と自己の存在を一体化し、自分自身の夢に生きたのである。彼は、自分の青春時代にデキシーランド・ジャズとカクテル・ウイスキーに酔いしれながら、お金や時間を浪費して、自分自身の夢のために自分の人生を捧げた戦後の作家と見なされている。

Francis Scott Key Fitzgeraldは、ミネソタ州セント・ポールで、1896年9月24日に生まれた。17才の時、金持ちの人々が通う有名な私立大学、プリンストン大学に入学した。翌年、John Peale Bishopと交際し、彼は、フィッツジェラルドの詩の先生となった。次に、Edmund Wilsonと交際した。彼は、*The Nassau Literary Magazine*のチーフ・エディターで落ち着いた知性と批評観を持った人である。彼等の両者がフィッツジェラルドの文学に多大な影響を及ぼしたのである。彼の文学活動のおよそ20年間に、「ジャズ・エイジ」を背景とする彼の青春文学を築き上げたのである。彼の初期の作品である、*This Side of Paradise*, *The Beautiful and Damned*と*Tales of the Jazz Age*の中に、ジャズ・エイジにおけるアメリカ人の生きざまが、はっきりと記述されている。

ジャズ・エイジとは、第1次世界大戦後のアメリカの非常に繁栄した富裕な時代を言うのである。しかし、ジャズ・エイジは、当時の若い人々の精神状況においては、不毛の時代であったことは、いなめない。フィッツジェラルドは、喜びと悲しみ、成功の夢と現実、熱病と幻滅の両極を見事に描いたのである。「楽園のこちら側」という作品には、彼の青春時代が象徴されている。彼は、パラダイス（楽園）の中に生きていたのである。そして、彼は、美しい少女と富を得ようと奮闘努力し、青春を燃焼させていったのである。まさに、フィッツジェラルドは、ジャズ・エイジのアメリカの若者達の代弁者とみなすことが出来る。つまり、ジャズ・エイジは、フィッツジェラルドにとって、文学的土壌となっていたのである。これは、「彼がジャズ・エイジの編年史記者としてずっと刻印を押される」¹理由である。それ故に、私達は、彼の文学を理解する上で、ジャズ・エイジがどのような様であるかを知ることが必要である。

作家としてのフィッツジェラルドの本当の偉大さは、彼がジャズ・エイジを自己の人生を賭けて生き抜き、彼自身その時代の活気を痛烈に膚で感じたという事実に依るのである。つまり、熱病の時代としてジャズ・エイジを生き抜いた一方、フィッツジェラルドは、その時代に批判を下

していたのである。この意味で、彼の文学世界に関して、最も重要な事は、彼がいわゆるジャズ・エイジを身を持って生き抜いたということである。従って、その時代をはっきりと理解することは、彼の文学の特徴を理解するのに大変役立つのである。彼が生きたジャズ・エイジは、アメリカにおける丁度1920年代であり、他の意味で、第1次世界大戦後の1920年代は、アメリカ社会において経済的好況のために「富」と「美」を追求する時代であった。富と美ばかりでなく、青春も又、フィッツジェラルドの文学の主題である。彼は、自分の小説にジャズ・エイジの歴史的そして社会的セッティングを適用したのである。

フィッツジェラルドの主題は、彼の小説の背景として描き続けた1920年代の広く広った道徳的腐敗である。それ故に、小説の彼のセッティングを考える場合に、私達は、ジャズ・エイジの特質を理解しなければならない。ジャズ・エイジは、繁栄のムードがArthur Mizenerの述べている通り、第1次世界大戦後アメリカに漂っていた1920年代の別名である。

The truth is that the 1920's was a time of great cultural change in America marked by an outburst of creative activity so vigorous that we are still a little stunned by it.²

そして又、Alfred Kazinは、「1920年代は、事実、偉大な繁栄と自由の時期であり、浪費と気ままにふるまえる時代であった³」と言っている。1920年代は、新しい世代がアメリカの社会状況において古い世代に取って代った時代であった。それは、ワイルドなジャズ音楽の流行の時代であり、アメリカの若い男女達が酒を飲んだり、歌ったり、踊ったりして楽しんだ時代であった。

ジャズ・エイジは、アメリカの青年男女にとって熱病の時代を意味していたのである。その当時の流行の全てであった物狂おしいジャズは、道徳観と伝統的慣習の無視と浪費・放蕩の喜びと気分を最もよく表現している。この時代の悲しみと喜びを描写したのは、フィッツジェラルドだけのように思われる。彼は、*This Side of Paradise*の中でジャズ・エイジの道徳的腐敗を鋭く述べたのである。この小説の中で、主人公のAmoryは、少女達が不可能な事、例えば、真夜中の3時に食事をし、ダンスの後、不可能と思えるカフェで朝食をとり、ふざけ半分の様子で、しかも、モラル低下を表わす興奮ぶりで、人生のあらゆる面について語る事、等をしているのを見たのである。第1次世界大戦が多く青年男女を慣習的境遇から引きずり出し、その結果、彼等に自由放任主義を植え付けたのである。この点で、*This Side of Paradise*は、アメリカの若者達にとって青春の戦後の大変革の始まりの先きふれをしたのである。

すなわち、第1次世界大戦後、多くの若者達は、人間が自分達自身楽しむ権利を持っており、戦争の不条理な状況から来る精神状態の不安から自由に解放されると思っていたのである。アメリカの若い男女達のこのような生活様式は、*This Side of Paradise*, *The Beautiful and Damned* や *The Great Gatsby*の中に描かれている。ジャズ・エイジのアメリカ絵巻は、特に *This Side of Paradise*の中に生き生きと描かれている。

フィッツジェラルドは、ジャズ・エイジのアメリカにおいて、自己の存在を1920年代と一体化したのである。しかし、他方、彼は、厳しいモラリストであり、物質文明の繁栄の中心部に潜ん

でいる俗悪さを批判し、決して見逃さなかった。フィッツジェラルドは

“I am too much of a moralist at heart, and really want to preach at people in some acceptable form rather than to entertain them.”⁴

と独りごとを言っている。‘disillusioned’ や ‘disenchanted’ という語がジャズ・エイジを特徴づけるためにしばしば用いられるのは、重要なことである。この点に関して、フィッツジェラルドはまず、アメリカ人の生活の豪華な面に惚れたのであった。しかし、*The Great Gatsby*の語り手、Nick Carraway、すなわち、フィッツジェラルドの分身は、Buchanan 夫妻のようなアメリカ人の物質主義者達の無情なマナーに胸のむかつく程うんざりするのである。

フィッツジェラルドにとって、ジャズ・エイジは、つまり、私が前に言った様に幻滅と悲哀の時代であった。又、それは、全ての神々がすでに死んで、若い人々の間の全ての伝統的慣習が大きく揺いだ時代でした。この点に関して、J.W.Krutch は、アメリカにおけるジャズ・エイジの社会的状況について、次の様に的確に言っている。

Most of the faiths which we received from the Victorians had already by then been shaken. Certainly the church which majority of their dogmas had become gradually so much attenuated new generation to make them vanish away.⁵

この意味において、フィッツジェラルドは、又、彼の同時代の人達と同様に“失われた世代”の作家達の一人である。実際に、この問題に関して、Sergio Perosa は、次の様にジャズ・エイジの精神状況に関して明確に分析している。

The Jazz Age has given way to an age of crisis and uncertainty. Human integrity is the victim of deep lacerations, eaten by the worm of inner evil, of personal weaknesses, of restlessness.⁶

アメリカの若い理想主義者達にとって、ジャズ・エイジのこちら側、つまり、精神面の意味において、経済的繁栄に比べれば、不毛であることは、明らかであるように思われる。つまり、この時期のアメリカは、いわゆる‘waste land’である。

しかしながら、モラルティのこの腐敗した状況において、フィッツジェラルドにとって、ジャズ・エイジの華やかなステージに自分の輝やかな人生を築き上げることは、一種の人生観としての成功の信念であった。彼は貧困の醜さを嫌ったのである。この点において、フィッツジェラルドは、次の様に *This Side of Paradise* の中で記述している。

‘I detest poor people,’ thought Amory suddenly. ‘I hate them for being poor. Poverty may have been beautiful once, but it’s rotten now. It’s the ugliest thing in the world. It’s essentially cleaner to be corrupt and rich than it is to be innocent and poor.’⁷

これは、フィッツジェラルドが物の考え方、すなわち、ジャズ・エイジの流行である。物事を軽率に考え、自分だけが楽しい思いをし、一般的に他の人々や世間のことよりもむしろ自分だけが骨休めをし、自分のことだけを構うように成り始めた証拠である。K.G.W.Gross が言う様に、こ

の様な文学的視点は、「フィッツジェラルドの後の多くの小説のテーマの前兆となる結論である。」⁸ 事実、彼の小説の中の主なキャラクター、例えば、Amory や Gatsby 等が貧乏を憎み、金持ちになりたいと願望し、又、フィッツジェラルド自身も貧乏を嫌って金持ちになりたかったのである。この点に関して、彼は、次の様に *This Side of Paradise* の中で Amory の精神状態を通して述べている。

I'm restless. *My whole generation is restless. I'm sick of a system where the richest man gets the most beautiful girl if he wants her, where the artist without an income has to sell his talents to a button manufacture.*⁹ (Italics mine)

要するに、フィッツジェラルドは、この社会的システムがアメリカにおけるジャズ・エイジの外面的特色を明確に表現していると感じていた。

The Great Gatsby において、フィッツジェラルドは、次の様にジャズ音楽の領域の中でジャズ・エイジの十分な趣きを描写している。

All night the saxophones wailed their hopeless comment of the Beale Street Blues, while five hundred pairs of gold and silver slippers shuffled the shining dust. At the gray tea hour there were always rooms that throbbed incessantly with this low sweet fever, while fresh faces drifted here and there like rose petals blown by the sad horns around the floor.¹⁰

Gross が言うように、「ジャズの激しいビートとノスタルジックな嘆きは、フィッツジェラルドの小説の若い男女達が青春のそれぞれの貴重な、はかない瞬間に楽しい経験を詰め込もうとする絶望的あせりをうまく表現していた」¹¹ フィッツジェラルドは、青春がサクソホーンの嘆きのようなはかない瞬間であると痛感した。彼は、ジャズ・エイジにおけるアメリカの若者達の目的のない放縦な行動を記述した。又、彼は、“Echoes of the Jazz Age” の中でジャズ・エイジについて次の様に明白に述べている。

The Jazz Age had had a wild youth and a heady middle age. There was the phase of the necking parties, the Leopold-Loeb murder (I remember the time my wife was arrested on Queensborough Bridge on the suspicion of being the 'Bob-haired Bandit') and the John Held Clothes.¹²

これは、アメリカにおけるジャズ・エイジの社会生活の一面であった。そして事実、necking パーティや殺人や神経症や精神錯乱は、その当時のアメリカの若者達の間で社会的精神現象であった。彼等は、心の中に理想も夢も持っていなかった。この点において、フィッツジェラルドのロマンチックなヒーロー達は、彼等の人生に対して理想と夢を持っている。それ故に、彼のヒーロー達は、アメリカの若者達を引きつけるのである。

20世紀の作家達にとって、特にフィッツジェラルドにとって、ジャズ・エイジは、物質的な面においては、豪華な繁栄の時代であった。しかし他方、Allen が言うように、20世紀は、「アメリカ人の良心の反抗が終った時代」¹³ でした。ジャズ・エイジのアメリカ社会は、神に見捨てられた

モラルの無い社会である。フィッツジェラルドは、“Echoes of the Jazz Age”の中でジャズ・エイジについて次の様に適切に述べている。

But petting in its more audacious manifestation was confined to the wealthier classes--among other young people the old standard prevailed until after the War, and a kiss meant that a proposal was expected, as young officers in strange cities sometimes discovered to their dismay. Only in 1920 did the veil finally fall--the Jazz Age was in flower.¹⁴

それから、

The word jazz in its progress toward respectability has meant first sex, then dancing, then music. It is associated with *a state of nervous stimulation*, not unlike that of big cities behind the lines of a war...!¹⁵ (Italics mine)

フィッツジェラルドの物語の悲しい若いヒーロー達の全ては、神経的刺激の状態によって幻滅を感じさせられ、破滅させられ、そして打ちのめさせられるのである。このテーマに関して、Amoryの人生に対する敏感な観察を通し、精神状況と生活様式が *This Side of Paradise* の中で次の様にはっきりと描写している。

‘Well,’ said Amory, *I simply state that I’m a product of a versatile mind in a restless generation--with every reason to throw my mind and pen in with the radicals. Even if, deep in my heart, I thought we were all blind atoms in a world as limited as a stroke of a pendulum, I and my sort would struggle against tradition; try, at least, to displace old cants with new ones. I’ve thought I was right about life at various times but faith is difficult. One thing I know. If living isn’t a seeking for the grail it may be a damned amusing game.*¹⁶ (Italics mine)

フィッツジェラルドは、かつて、「私は、他の誰も私達の世代の若者の物語を非常に探究的に書くことが出来なかったと本当に信じている」と述べた。彼の言葉は、上に述べた引用文で明白に裏付けされる。フィッツジェラルドが、彼の作品を通して記述しているように、事実、彼の世代は、落ち着かない不安な時代で、それ故、若者の生活は、聖杯を求めるものであった。フィッツジェラルド自身とジャズ・エイジの若者達にとって、聖杯は十分な富を得て、美しい少女と結婚することを象徴している。

フィッツジェラルドは、若い世代がジャズの流行の後の静けさと孤独に耐えることが出来ない不安と、又、彼等が価値の体系を失ったむなしい感情を描写した。彼は、外面的にはジャズ・エイジの快活さと快樂主義に和合したが、しかし他方、裏側の陰うつと空虚、無意味さに目を向けたのであった。

フィッツジェラルドの傑作 *The Great Gatsby* は、豪華さの背後に偲び寄る暗い影を大変巧妙に把握している小説である。以前の恋人を取り戻そうとする虚しい夢に生きてきた Gatsby の異常な人生とその破滅は、まるでそれらがジャズ・エイジの精神的不毛を象徴しているかのよう

空虚である。同時に、にわか景気の寄せ来る終末を予言しているように思われる。フィッツジェラルドは、ジャズ・エイジの中でアメリカ社会自体の感情的不安と落ち着き無さと空虚さを指摘した。Richard D. Lehan が言うように、事実、フィッツジェラルドは、「彼自身の世代の心をほとんど完全に具現した¹⁷」のである。即ち、フィッツジェラルド自身は、ジャズ・エイジの人生の終りに *Tender is the Night* のヒーロー Dick Diver のように精神的に崩壊したのである。要するに、フィッツジェラルドは、Amory, Anthony, Gatsby, Dick 等のような彼の小説の悲しい若きヒーロー達の1人である。

歴史的に、1920年代は、第1次世界大戦の後の小春日よりの時代である。ピュリタニズムやヴィクトリアン・モラルティは、アメリカの若い男女達の間で無視された。1920年代には、戦後の世代は、彼等の伝統的な慣例や道徳にしがみつ়くことに対して古い世代を非難した。即ち、若い世代は、戦前の世代における古い物の考え方や生活様式やヴィクトリアン・モラルティの上品な伝統に対して顔をそむけた。この事に関して、Merle Curti は大変適切に言っている。

Many who did not share in the new prosperity had doubts about the beneficence of large-scale business organization. Others, especially the so-called intelligentsia, expressed cynical disillusionment with the whole American way of life, middle-class respectability, acquisitiveness, commercialism, the genteel tradition in letters, and the assumption of national superiority. Many among the younger generation tended to share the intellectuals' revolt against Victorian manners and morals and noisily insisted on the right to defy conventions and enjoy life. Thus the 'twenties, in spite of the prevailing complacency, were not without contradiction and confusion.'¹⁸

1920年代に、若者達は、アメリカの社会におけるマンネリ化した生き方を完全に一変させたのである。フィッツジェラルドは、アメリカの1920年代における生活様式を生き生きと描写したのである。又、彼は、自分自身の人生が新しい世代の典型であるばかりでなく、代表するものであると感じていた。

要するに、フィッツジェラルドがジャズ・エイジを通して生きてきた様に、彼の小説のヒーロー達も又、彼と共に同じ時期を生きて来た者達であった。しかしながら、それは、伝統的なモラルティが無に帰して、全くの神が死滅した時期であった。事実、当時、アメリカは、フィッツジェラルドのヒーロー達にとって彼等が伝統的に立派なそして価値あるものを何も見つけることが出来ない、いわゆる 'waste land' であった。

Notes

- 1) K.G.W.Cross, *Scott Fitzgerald*, (Oliver and Boyd, Edinburgh and London, 1964), p.19.
- 2) Arthur Mizener, *F.Scott Fitzgerald* (Twentieth Century Views, 1963), p.5.
- 3) Alfred Kazin, *F.S.Fitzgerald: The Man and His Works*, (World Publishing Co., 1951), p.124.
- 4) *The Crack-Up*, ed. Edmund Wilson (New York : New Directions, 1945), p. 305.
- 5) Joseph Wood Krutch, *The Modern Temper : A Study and A Confession* (Harvest Book). (Harcourt, Brace and Company), New York, 1956, p.65.
- 6) Sergio Perosa, *The Art of F.Scott Fitzgerald* (Ann Arbor, The University Michigan Press, 1965), p. 101.
- 7) *This Side of Paradise*, (A Penguin Book), p. 230.
- 8) K.G.W.Cross, *Scott Fitzgerald*, p. 29.
- 9) *This Side of Paradise*, p. 249.
- 10) *The Great Gatsby*, (A Penguin Book), p. 157.
- 11) K.G.W.Cross, *Scott Fitzgerald*, pp. 32—33.
- 12) "Echoes of the Jazz Age", (A Penguin Book), p. 18.
- 13) F.L.Allen, *The Big Change*, p. 105.
- 14) "Echoes of the Jazz Age", p. 11.
- 15) Ibid., p. 2.
- 16) *This Side of Paradise*, p. 250.
- 17) Richard D.Lehan, *F.Scott Fitzgerald: The Man and His Works* (Forum House, 1969), p. 169.
- 18) Merle Curti, *The Growth of American Thought* (New York, Harper and Brothers Publishers,1951), p. 686.